

市民農園利用者の利用形態と意識構造

——名古屋市市民農園利用者調査から——

松宮 朝・中村麻理¹⁾・鵜飼洋一郎²⁾

1. 本稿の目的

近年関心の高まりが指摘されている都市の農にはいくつかタイプがあるが、その中心となるのは市民農園である。市民農園とは、家庭菜園などの個人が自らの所有地で趣味、自給を目的として開設する農園とは異なり、相当数の（通常10名以上の）都市住民が、一定の土地を自給目的で借りて利用する小農園の団地とされる（樋口，1999：75）。1999年に策定された「食料・農業・農村基本法」において、「国は、都市及びその周辺における農業について、消費地に近い特性を生かし、都市住民の需要に即した農業生産の振興を図る」という目的のもと、都市農業の積極的な推進が進められているが、農林水産省による都市農業調査では、自治体が期待する都市農業の振興策としては、市民農園への期待が最も高くなっている（農林水産省農林振興局編，2011）。実際、市民農園の政策的推進が進み、市民農園開設が進むことで、市民農園の利用者が大幅に増加することとなった。

もっとも、その量的な増加は明らかであるが、利用者の実態については不明確な点が多い。市民農園等の貸農園利用者が200万人という推計値がある（農林水産省編，2011）ものの、農林水産省が2002年に実施した「市民農園に関する意向調査」（全国の法律に基づく市民農園利用者3,000サンプルを無作為抽出した郵送調査、有効回答率85.3%）（農林水産省編，2002）が唯一の全国規模調査であり、利用者に関する実態は十分に把握できていないのが現状である。こうした課題に対して本稿では、2015年の1～3月にかけて実施した、名古屋市市民農園利用者調査（有効配布件数2,891、有効回収件数1,607、回収率55.6%）³⁾のデータを用い、単純集計レベルの分析と、今後の研究につなげるための仮説的な知見を提示したい。

2. 市民農園をめぐる状況

データの分析を行う前に、まずは、日本の市民農園の歴史的展開について確認しておこう（表1）。

1952年の農地法制定により、市民農園は農地制度的に存立が困難となったため、1960年代半ばまでは開設が進まなかったものの、1960年代後半から、都市化の進展に伴う農地の遊休地化対策や、1968年の新都市計画法による「線引き」以降、市街化区域内農地の利用対策の1つとして市民農園に注目が集まりはじめた。

市民農園の政策的推進が見られたのは、1975年の農林水産省による「レクリエーション農園通達」である。市民農園開設の制度が創設されたが、その大幅な増加が見られるのは1980年代後半以降である。これは、特定農地貸付法（1989年）、市民農園整備促進法（1990年）、および、食料・農業・農村基本法（1999年）において市民農園の推進が位置づけられたこともあり、市町村計画、都市計画において積極的に推進されたことが大きい。さらに、農林水産省は、2002年の「『食』と『農』の再生プラン」において「都市と農山漁村の共生・交流」という点から、農地の遊休化が深刻化する地域における市民農園開設を強く促していく。こうした動きに対応して、市民農園数の増加が見られる（表2）。

さらに、2003年4月の構造改革特別区域法では、農地の遊休化が深刻化する地域において、市民農園開設にあたっての農地法上の規制が緩和され、NPO、企業による開設が可能となった。そして2005年には特区以外にも全国展開され、2005年以降、NPO法人による農業参入も進みつつある。

表2に示したデータは、農林水産省が把握した、法律に基づく市民農園数の推移である。実際には、この数以上の、法律に基づかない市民農園があるとされるが、こ

表1 市民農園に関する政策

年	事項	内容
1952	農地法制定	農地制度的に市民農園の存立が不可能となる
1968	新都市計画法	線引き制度導入、用途地域の細分化
1973	市街化区域内の「農地」に対する宅地並み課税	
1974	生産緑地法	
1975	農林水産省→「レクリエーション農園通達」	「入園契約方式」による市民農園の開設を可能とする
1983	市民農園促進議員連盟発足	
1985	日本クラインガルテン研究会発足	
1987	宅地並み課税強化	
1989	「特定農地の貸付けに係わる農地法等の特例法」	市町村、農協による市民農園開設が可能となる
1990	「市民農園整備促進法」	市民農園に法的根拠を与え、優良な市民農園の整備促進を図る
1991	生産緑地法改正	3大都市圏特定市市街化区域内農地を生産緑地と宅地化農地に二分
1994	建設省→認定市民農園整備事業 「特定市民農園の整備の推進について」	貸し農園に対して賃貸期間20年以上の要件で、課税評価額を3割削減
1999	食料・農業・農村基本法	農業政策として「市民農園」の位置づけ
2003	構造改革特別区域法	特区指定地域で、市民、企業、NPOも市民農園開設が可能となる
2005	「特定農地貸付法」改正 「市民農園整備促進法」改正	農家による開設を可能とする 農家・NPO等も市民農園開設が可能となる
	農林水産省「都市農業・地域交流室」設置	都市農業を所管する部署初の設置
2006	農林水産省通達	市民農園での野菜販売を可能とする
2008	東京都区内34区市町「都市農地保全推進自治体協議会」	

表2 法律に基づく市民農園数の推移⁴⁾

	1993	1998	2003	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
地方公共団体	807	1,607	2,258	2,342	2,287	2,276	2,259	2,306	2,343	2,396	2,356
農協	217	423	481	494	489	482	490	499	530	520	515
農業者	15	89	149	283	357	480	603	725	806	897	946
企業、NPO等	—	—	—	16	31	58	163	281	289	279	296
農園数合計	1,039	2,119	2,904	3,246	3,273	3,382	3,596	3,811	3,968	4,092	4,113

のデータから大まかな傾向をつかむことができる。市民農園の開設数は、市民農園に関する法律が整ってからの20年間で、約4倍と大幅に増加している。近年の傾向としては、地方自治体、農協が農家から土地を借りて開設する方式は停滞気味で、農業者が開設する方式と、NPO等が開設する方式の増加が目立つ状況である。

3. これまでの市民農園の利用者調査と本調査の位置づけ

3-1. 課題①：これまでの市民農園利用者調査データの限界

これまで市民農園利用者はどのようにとらえられてきたのだろうか。表3は、これまでの市民農園利用者に関する調査研究について、主として学会誌、紀要に掲載された成果をまとめたものである⁵⁾。

市民農園の利用者に関する調査研究は、山崎（1985）がまとめられた1980年代半ば以降、一定の関心を集めるようになってきている。その内容について見てみると、主

に都市計画的な視点からの分析が多く、市民農園の立地条件、市民農園利用の効果、満足度を規定する要因などが焦点化されている。これらの調査では、市民農園利用における社会関係の形成、交流といった効果が明らかにされ、そこから市民農園に対する様々な期待を寄せている。しかし、その実態と効果がどのようなものかを検証するためには、これまでの調査データにはいくつか限界がある。

まず、農林水産省編（2002）が唯一の全国規模調査であり、1つの自治体を対象にした、多様な開設主体の市民農園利用者の調査がない点を指摘することができる。2000年代に入り、山田・門間（2006）、八木（2009）など、東京都の体験農園利用者調査が行われるが、民間開設の市民農園利用者調査は河野・藤田（2014）がある程度で、農協、民間開設の市民農園利用者データも少ない。

以上の点から、先行研究において、多様な開設主体の

表3 市民農園利用者調査の概要

論文	調査年	調査対象	調査方法	配布数	回収率
山崎 (1985)	1981	伊丹市3市民農園利用者	郵送	216	79%
中村攻ほか (1986)	1983	練馬区3区市民農園	留置	200	—
中山 (1986)	1984	大阪府11市民農園利用者	郵送	594	57%
定井 (1989)	1988	徳島市2市民農園利用者	留置	129	91.4%
松永ほか (1995)、李・進士 (1996)	1994	東京都、埼玉県7市民農園利用者	郵送	660	52.3%
宮崎猛編著 (2000)	1994-1995	京都市、美山町3市民農園利用者	郵送	135	70-81%
妹尾・石川 (1998)	1996	広島市内4市民農園利用者	郵送	360	76.1%
三宅・松本 (1997)	1997	岐阜市12高齢者農園利用者	郵送	587	79.9%
樋口 (1999)	1997	埼玉県川口市見沼ふれあい農園利用者	郵送	98	65%
三宅・松本 (2002)	1998	安城市農業公園内市民農園利用者	郵送	60	53%
片岡 (2001)	2000	町田市5市民農園利用者	留置	274	56.2%
三宅・松本 (2001)	2000	岐阜市市民農園利用者	郵送	521	66-72%
宮崎・佐土原 (2001)	2001	横浜市10市民農園利用者	郵送	288	60%
農林水産省編 (2002)	2002	全国市民農園利用者から3000サンプル抽出	郵送	3000	85.3%
山田・門間 (2006)	2004	練馬区9体験農園利用者	郵送	1120	37%
八木 (2009)	2005	東京都農業体験農園利用者	郵送	1250	53.8%
湯沢 (2012)	2010	前橋市コミュニティファーム「ゆい」利用者	留置	79	100.0%
河野・藤田 (2014)	2011	首都圏の(株)東邦レオ開設「まちなか菜園」利用者	面接・郵送	207	52.17%

市民農園利用者をとらえられないという問題があり、さらに利用者層ごとの利用形態、意識の違いや、開設主体ごとの比較ができないという限界が見えてくる。1つの自治体における、多様な主体が開設した市民農園の利用者を対象とした調査を実施したのは、こうした既存研究が依拠してきたデータの限界を乗り越えるねらいがある。特に、市、農協、民間という開設主体によって、年間利用料金、貸し出しの期間、設備、サービス内容は大きく異なっており、利用者の特性、意識も大きく異なることが推測される。本稿では、2015年の1～3月にかけて実施した、名古屋市における、市、農協、民間という3つの開設主体の市民農園利用者調査（有効配布件数2,891、有効回収件数1,607、回収率55.6%）のデータを用いることにより、利用者の特性、利用実態、満足度に関する概要を示した上で、市、農協、民間の開設主体別の違いを中心に分析を進めていきたい。この点が本稿の1つ目の課題である。

3-2. 課題②：市民農園利用者に関する先行研究と本稿の課題

表3に示した市民農園利用者に関する先行研究の中心的な関心は以下の2つに分けられる。

第1に、市民農園利用の多様な社会的、精神的効果である。①自然や農業に関する理解、②人間との交流、③農業と地域への愛着、④人間性の回復、⑤農業や農民への関心、⑥農作物の安全性の関心、⑦環境問題への関心、⑧農作物の理解の8つに分類した李・進士 (1996) や、①経済的効果、②社会的交流効果、③自然環境的効

果、④健康的効果の4点から測定し、特に②社会的交流効果、③自然環境的効果が高い点を明らかにした妹尾・石川 (1998) が代表的なものである。

第2に、市民農園利用による行動パターン、意識構造の変化である。消極的余暇活動の減少と積極的余暇活動の増加 (中村, 1986) や、東京都農業体験農業利用者が農業に対するマイナスイメージをプラスに転換したことが明らかにされている (山田・門間, 2006)。さらに、「生き甲斐対策効果」、「環境改善効果」、「安全野菜入手効果」、「交流促進効果」などの多様な効果が見られるだけでなく、農業を通じた効果が「生き甲斐対策効果」に影響し、それが地域住民と農業者との交流や農園利用者同士の交流など「交流促進効果」に影響する点も明らかにされている (湯沢, 2012)。

以上の研究は、市民農園という形で都市の農の活動にかかわることの社会的効果を明らかにしているものだが、利用者の特性や、利用の実態、利用者の行動変容、意識構造の形成についての詳細な分析は十分ではない。本稿の2つ目の課題は、市民農園の利用実態、満足度などの規定要因に関する詳細な分析に向けての端緒を開くことである。

以上の2つの課題に対して、本稿では、市民農園利用者の特性、利用形態、意識構造について、今後の分析に向けたデータの提示を最優先に分析を進めていくことにしたい。

4. 名古屋市市民農園利用者の分析

4-1. 利用者の特性

①性別

表4 利用者の性別

	市営		農協		民間		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
男性	434	62.6	426	62.6	114	57.9	972	62.0
女性	259	37.4	254	37.4	83	42.1	596	38.0
計	693	100.0	680	100.0	197	100.0	1570	100.0

$\chi^2 = 1.66n.s.$

名古屋市の市民農園利用者は、全体として6割強が男性で、女性が4割弱である。これまでの先行研究では、利用者の性別に関する分析はあまりなされていないため、本調査との比較は難しいものの、女性利用者が相当数を占めている点を確認しておきたい。また、 χ^2 検定の結果は有意ではないが、開設主体別では民間開設型で女性の比率が42.1%とやや高くなっている。

②年齢

表5、表6は市民農園利用者の年齢を示している。全体的に、60歳以上の利用者が多く、8割以上を占めている。多重比較の結果⁶⁾からは、農協>市営>民間の順で年齢が高いことが明らかとなった。先行研究では、一般的な市民農園利用者は、65歳以上が36%、50~65歳が49%（農林水産省編，2002）というように、相対的に高

表5 年齢

年齢コード	年齢	度数	%
1	~19	0	0.0
2	20~24	2	0.1
3	25~29	5	0.3
4	30~34	17	1.1
5	35~39	36	2.2
6	40~44	38	2.4
7	45~49	55	3.4
8	50~54	57	3.5
9	55~59	75	4.7
10	60~64	188	11.7
11	65~69	358	22.3
12	70~74	461	28.7
13	75~79	200	12.4
14	80~	90	5.6
	無回答	25	1.6
	計	1607	100.0

表6 年齢コードの平均値

市営	農協	民間	合計	F値	多重比較
10.5(2.3)	11.6(1.7)	9.8(2.5)	10.9(2.2)	71.62**	農協>市営 >民間

()内の数値は標準偏差 *p<.05 **p<.01

齢である点が明らかにされてきた。その一方で、体験農園利用者は30~40代が相対的に多く（山田・門間，2006）、民間開設の都市型体験農園では、62%が40歳未満の利用者という知見もあった（河野・藤田，2014）。名古屋市のデータからは、概ね先行研究で明らかにされてきた傾向が認められたといえる。

③利用者の居住地

利用者の居住地はかなり偏りがみられ、緑区が19.4%で最も多く、中川区11.2%、北区8.0%と続いている（表7）。

表7 居住地

	度数	%
千種区	45	2.8
東区	21	1.3
北区	129	8.0
西区	97	6.0
中村区	95	5.9
中区	14	0.9
昭和区	31	1.9
瑞穂区	89	5.5
熱田区	25	1.6
中川区	180	11.2
港区	62	3.9
南区	96	6.0
守山区	155	9.6
緑区	311	19.4
名東区	58	3.6
天白区	159	9.9
市外	2	0.1
無回答	38	2.4
計	1607	100.0

4-2. 利用実態

①交通手段、移動時間

表8 交通手段（複数回答）

	度数	%
徒歩のみ	272	16.9
自転車	712	44.3
自動車	824	51.3
電車・地下鉄	28	1.7
バス	53	3.3
その他	19	1.2

市民農園までの移動については、自動車が51.3%と最も多く、自転車が44.3%と続いている。徒歩のみという回答は16.9%である。

表9 移動時間の平均値

市営	農協	民間	合計	F値	多重比較
14.9(10.1)	9.9(7.1)	15.9(11.3)	12.9(9.5)	61.66**	民間>市営 >農協

()内の数値は標準偏差 *p<.05 **p<.01

移動時間は民間>市営>農協の順に長い、最長の民間でも15.9分である。

農林水産省による調査では、約3/4の利用者が「15分程度」、交通手段は自家用車が5割（農林水産省編，2002）であったが、概ねその傾向は今回の調査結果からも確認された。

②利用日数/月と利用時間/日

表10と表11は、利用日数/月と利用時間/日を示したものである。

一月あたりの利用日数については、農協>市営>民間

表10 利用日数/月の平均値

市営	農協	民間	合計	F 値	多重比較
10.7 (6.3)	12.4 (7.0)	8.0 (6.4)	11.1 (6.8)	35.16**	農協>市営 >民間

() 内の数値は標準偏差 *p<.05 **p<.01

表11 利用時間/日の平均値

市営	農協	民間	合計	F 値	多重比較
72.8 (44.9)	77.3 (51.9)	86.4 (74.7)	76.4 (52.7)	5.20**	民間>市営, 農協

() 内の数値は標準偏差 *p<.05 **p<.01

の順に多くなっている。一日当たりの利用時間は対照的に、民間開設型の86.4分が最も長く、市営、農協との間に有意な違いが認められる⁷⁾。

③一緒に農作業をする人

では、市民農園における農作業はどのような形で行われているのだろうか。

表12は、一緒に農作業する人についてまとめたものである。

表12 一緒に農作業する人 (複数回答)

	度数	%
配偶者	926	57.6
子ども	221	13.8
孫	100	6.2
母親	28	1.7
父親	26	1.6
祖父	6	0.4
祖母	12	0.7
友人	120	7.5
職場の同僚・上司	11	0.7
その他	32	2.0

配偶者が57.6%と最も多く、子どもが13.8%、孫が6.2%と続いている。市民農園において一緒に作業するのは、家族が多い一方で、友人は7.5%と相対的に少ない。

④他の利用者との関係

他の利用者との関係については、「お互いにあいさつする」が「当てはまる」、「やや当てはまる」合わせて9割を超える。その一方で、「自分の作物や相手の作物について、協力して農作業をする」は4割弱、「市民農園で知り合った人と、市民農園の外でも仲良くする」は3割弱である(表13)。

表14は、利用者との関係に関する回答について、「当てはまる」5～「当てはまらない」1のように数値を割り振り、その平均値を示したものである。「自分の作物や相手の作物について、協力して農作業をする」については、民間が市営、農協開設型よりも有意に高く、「市民農園で知り合った人と、市民農園の外でも仲良くする」では、農協開設型が他のカテゴリーよりも高い数値となっている。市民農園における農作業の協力関係については、民間開設型ではそのような協力を前提とした講習や共同作業のプログラムがとられている場合が多いと推測される。また、農協開設型ではそもそも知り合いであった人のつてにより利用を開始したケースが一定程度存在することも影響していると考えられる。

4-3. 市民農園利用の満足度、意識

表15、表16は、市民農園利用の満足度を、不満1～満足10と10段階で尋ねた結果である。全体的に半数以上が6以上の相対的に満足度が高い回答である。項目毎の満足度について見てみると、表17に示したように、

表13 市民農園の他の利用者との関係 (%)

	当てはまる	やや当てはまる	どちらともいえない	あまり当てはまらない	当てはまらない
お互いにあいさつをする	77	17	3	1	0
自分の作物や相手の作物について、協力して農作業をする	17	21	16	18	25
市民農園で知り合った人と、市民農園の外でも仲良くする	15	14	15	16	37
作物の育て方などについて教えてもらうことがある	40	37	9	6	6
作物の育て方などについて教えてあげることがある	18	32	19	15	15

表14 利用者との関係の平均値

	市営	農協	民間	合計	F 値	多重比較
お互いにあいさつをする	4.7 (0.6)	4.7(0.7)	4.8(0.6)	4.7(0.6)	1.13	
協力して農作業をする	2.8(1.4)	2.8(1.5)	3.2(1.5)	2.9(1.5)	7.07**	民間>市営, 農協
市民農園で知り合った人と、市民農園の外でも仲良くする	2.4(1.4)	2.7(1.5)	2.3(1.4)	2.5(1.5)	7.99**	農協>市営, 民間
作物の育て方などについて教えてもらうことがある	4.1(1.1)	3.9(1.2)	3.9(1.2)	4.0(1.1)	4.79**	市営>農協
作物の育て方などについて教えてあげることがある	3.2(1.3)	3.3(1.3)	3.2(1.3)	3.2(1.3)	1.23	

() 内の数値は標準偏差 *p<.05 **p<.01

「畑の広さ」、「雰囲気の良い」、「付属設備」、「サービス全般」については民間開設型利用者の満足度が有意に高くなっている。

では、実際に市民農園利用により、どのような意識を

表15 満足度 (%)

	←不満			満足→						
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
満足度	1	1	4	4	16	9	16	28	8	12
畑の広さ	3	3	9	7	19	5	7	16	5	24
雰囲気の良い	1	1	3	2	18	7	12	22	10	23
家からの近さ	3	3	8	5	15	4	7	13	8	33
付属設備	8	4	7	4	17	4	9	16	8	19
サービス全般	7	4	7	4	24	6	9	15	6	12

持つようになったのだろうか。表17は利用開始時の市民農園に対する考え、表18は現在の市民農園に対する考えの回答結果である。

まず、現在の市民農園に対する考えから見ていこう(表18)。「農作業が運動になって健康に良い」、「休日や余暇の趣味として楽しみたい」、「安全・安心な農作物を自分で作りたい」、「家族や知人に自分の作った野菜を食べてもらいたい」という項目が、「当てはまる」、「やや当てはまる」合わせて8～9割と高くなっている。「農作業を通して家族のきずなを深めたい」、「地産地消など、環境に良いことをしたい」という項目が5割前後で続いている。

表16 満足度の平均値

	市営	農協	民間	合計	F値	多重比較
満足度	7.0 (2.0)	7.0 (2.0)	7.2 (2.0)	7.1 (2.0)	1.13	
畑の広さ	6.5 (2.7)	6.7 (2.6)	7.3 (2.6)	6.9 (2.7)	7.82**	民間>農協>市営
雰囲気の良い	7.5 (2.1)	7.3 (2.1)	8.1 (2.0)	7.5 (2.1)	11.24**	民間>市営>農協
家からの近さ	7.0 (2.8)	7.4 (2.6)	7.1 (2.7)	7.2 (2.7)	5.14**	農協>市営
付属設備	7.3 (2.4)	5.1 (2.7)	7.5 (2.5)	6.4 (2.9)	132.35**	民間>市営>農協
サービス全般	6.5 (2.4)	5.2 (2.7)	7.5 (2.4)	6.1 (2.6)	82.37**	民間>市営>農協

() 内の数値は標準偏差 *p<.05 **p<.01

表17 利用開始時の市民農園に対する考え (%)

	当てはまる	やや当てはまる	どちらともいえない	あまり当てはまらない	当てはまらない
農作物を自分で育てて家計を楽にしたい	11	17	20	19	28
教育として、子どもに農作業を体験させたい	13	17	16	13	34
農作業が運動になって健康に良い	49	32	10	4	2
休日や余暇の趣味として楽しみたい	56	31	7	2	1
安全・安心な農作物を自分で作りたい	53	28	11	3	3
本格的に農業をするため、技術や知識を習得したい	9	13	21	16	36
農作業を通して色々な人と知り合いたい	16	24	27	15	13
家族や知人に自分の作った野菜を食べてもらいたい	42	33	12	5	4
農作業を通して家族のきずなを深めたい	19	27	26	10	12
友人や知人と一緒に農作業を楽しみたい	14	18	25	16	21
地産地消など、環境に良いことをしたい	23	26	23	11	12

表18 現在の市民農園に対する考え (%)

	当てはまる	やや当てはまる	どちらともいえない	あまり当てはまらない	当てはまらない
農作物を自分で育てて家計を楽にしたい	11	17	21	21	26
教育として、子どもに農作業を体験させたい	11	17	14	13	38
農作業が運動になって健康に良い	49	34	11	2	2
休日や余暇の趣味として楽しみたい	57	32	5	2	1
安全・安心な農作物を自分で作りたい	56	28	9	3	2
本格的に農業をするため、技術や知識を習得したい	7	13	21	18	36
農作業を通して色々な人と知り合いたい	15	28	29	15	9
家族や知人に自分の作った野菜を食べてもらいたい	46	35	11	4	2
農作業を通して家族のきずなを深めたい	19	29	25	12	11
友人や知人と一緒に農作業を楽しみたい	14	20	27	15	21
地産地消など、環境に良いことをしたい	26	27	24	10	10

表19 市民農園利用での不満 (%)

	そう思う	ややそう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わな い	あてはまら ない
たくさん野菜が収穫できないと感じる	7	18	17	21	32	0
できる野菜の品質がよくないと感じる	5	16	21	20	34	0
肥料や道具の使い方がよくわからない	3	13	12	20	47	0
無農薬・減農薬栽培をしたいが、うまくいかない	8	19	16	18	34	0
道具や肥料をそろえるのにお金がかかりすぎる	7	18	17	19	34	0
作物がとれすぎて、持て余している	1	7	15	23	50	0
知識や技術を教えてくれる人がいない	5	11	15	17	40	7
本物の農家に教えてもらいたい	9	12	12	18	44	1
もっと家族と一緒に作業を楽しみたい	7	16	21	15	37	0
もっと友人と一緒に作業を楽しみたい	5	9	20	17	44	0
教育の為に借りたのに、子どもが参加してくれない	2	4	9	10	69	0
他の利用者ともっと仲良くなりたい	7	13	24	18	33	0
農園の見た目など、雰囲気が良くないと感じる	2	5	13	19	56	0
別の利用者の区画から作物がはみ出して迷惑だ	4	10	11	19	53	0
別の利用者の区画から農薬が飛んできて迷惑だ	3	5	12	18	57	0
仲の悪い利用者がいて、その人に会いたくない	3	3	8	14	68	0
虫や鳥のせいで、作物がだめになってしまう	12	33	13	14	25	0
農具を家から持ってくるのが面倒だ	8	14	9	15	50	0
トイレが設置されておらず、不便を感じる	22	18	7	12	37	0
シャワーが設置されておらず、不便を感じる	6	4	8	11	66	0
利用者向けの駐車場がない	22	16	7	8	43	0
家から遠くて利用しづらい	4	12	11	13	56	0
他の事が忙しくて、市民農園にあまり行けない	3	10	10	15	57	0
市民農園の利用料を払うのが生計の負担だと感じる	3	7	11	15	60	0
市民農園が少なくて、自分に合った所を選べない	18	20	12	9	37	0

「農作業を通して色々な人と知り合いたい」という交流志向について肯定的な回答は43%であり、否定的な評価は24%となっている。

こうした現在の考えと、市民農園利用開始時点の考えを比較してみよう。すぐに気づかされるのは、表17と表18の回答傾向がほとんど変わっていない点である。ここであえて小規模な変化を見ていくと、全体的には現時点での考えの方が「当てはまる」、「やや当てはまる」とする回答が多くなっている。一方、「教育として、子どもに農作業を体験させたい」、「本格的に農業をするため、技術や知識を習得したい」という2つの回答に関しては、現時点での考えの方が「当てはまる」、「やや当てはまる」とする肯定的な回答が若干減少している点に注意が必要と思われる。どちらも今後の市民農園サービスとして期待される領域でもあり、その減少傾向の持つ意味を探る必要があるだろう。

以上の点に関連して、市民農園に対する不満はどのように認識されているのだろうか。市民農園利用の不満に関する項目の回答は表19にまとめている。

全体としては、顕著に高い不満に対する項目は認められないが、「虫や鳥のせいで、作物がだめになっ

てしまった」、「トイレが設置されておらず、不便を感じる」、「利用者向けの駐車場がない」、「市民農園が少なくて、自分に合った所を選べない」については4割前後が不満という回答となっている。

ここでは、不満項目から浮かび上がる市民農園に対する意識を探るために、回答を「そう思う」5、「ややそう思う」4、「どちらともいえない」3、「あまりそう思わない」2、「そう思わない」1にリコーディングし、「あてはまらない」を欠損値とした上で、最尤法による因子分析を行った。その結果、固有値が1以上の6因子が抽出された(表20)。

因子1は、「肥料や道具の使い方がよくわからない」、「無農薬・減農薬栽培をしたいが、うまくいかない」、「道具や肥料をそろえるのにお金がかかりすぎる」、「知識や技術を教えてくれる人がいない」、「本物の農家に教えてもらいたい」に関連していることから「農業技術因子」とする。因子2は、「農園の見た目など、雰囲気が良くないと感じる」、「別の利用者の区画から作物がはみ出して迷惑だ」、「別の利用者の区画から農薬が飛んできて迷惑だ」、「仲の悪い利用者がいて、その人に会いたくない」という項目に関連する「環境・関係の困難因子」、因子3は、「もっと家族と一緒に作業を楽しみたい」、

表20 因子分析の結果（プロマックス回転後の因子負荷行列）

	共通性	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6
たくさん野菜が収穫できないと感じる	0.51	0.01	-0.01	0.07	0.00	0.69	0.01
できる野菜の品質がよくないと感じる	0.73	0.11	-0.01	-0.03	-0.05	0.81	0.01
肥料や道具の使い方がよくわからない	0.50	0.74	-0.09	-0.08	-0.13	0.09	0.06
無農薬・減農薬栽培をしたいが、うまくいかない	0.43	0.56	0.00	0.00	0.00	0.19	-0.10
道具や肥料をそろえるのにお金がかかりすぎる	0.35	0.47	0.11	-0.01	0.13	0.00	-0.02
作物がとれすぎて、持て余している	0.11	0.18	0.15	0.02	0.04	-0.09	0.10
知識や技術を教えてくれる人がいない	0.47	0.73	-0.05	-0.01	0.00	-0.03	-0.01
本物の農家に教えてもらいたい	0.46	0.56	-0.11	0.33	0.01	-0.13	-0.04
もっと家族と一緒に作業を楽しみたい	0.57	0.07	-0.03	0.73	-0.05	0.00	0.06
もっと友人と一緒に作業を楽しみたい	0.62	-0.10	0.01	0.83	-0.01	0.07	-0.05
教育の為に借りたのに、子どもが参加してくれない	0.21	0.06	0.15	0.33	-0.11	-0.05	0.15
他の利用者ともっと仲良くなりたい	0.39	-0.03	0.00	0.62	0.10	0.00	-0.04
農園の見た目など、雰囲気が良くないと感じる	0.39	0.07	0.49	0.05	0.06	0.08	0.01
別の利用者の区画から作物がはみ出して迷惑だ	0.60	-0.02	0.85	-0.04	-0.13	-0.02	0.02
別の利用者の区画から農薬が飛んできて迷惑だ	0.58	-0.04	0.79	-0.01	0.01	-0.02	-0.06
仲の悪い利用者がいて、その人に会いたくない	0.39	-0.10	0.65	0.06	0.00	-0.01	-0.01
虫や鳥のせいで、作物がだめになってしまう	0.23	0.21	0.14	-0.01	0.14	0.15	-0.01
農具を家から持ってくるのが面倒だ	0.30	0.29	0.15	-0.05	0.27	-0.03	0.04
トイレが設置されておらず、不便を感じる	0.51	-0.08	-0.08	0.01	0.80	-0.01	-0.07
シャワーが設置されておらず、不便を感じる	0.32	0.03	0.06	0.00	0.54	-0.02	-0.03
利用者向けの駐車場がない	0.33	0.01	-0.08	-0.02	0.52	-0.04	0.17
家から遠くて利用しづらい	0.61	-0.06	-0.04	-0.03	0.03	-0.02	0.81
他の事が忙しくて、市民農園にあまり行けない	0.28	0.25	0.04	0.02	-0.12	-0.05	0.43
市民農園の利用料を払うのが生計の負担だと感じる	0.23	0.21	0.15	0.03	0.18	0.01	0.04
市民農園が少なくて、自分に合った所を選べない	0.34	-0.11	0.00	0.06	0.18	0.16	0.43
固有値		6.09	2.03	1.68	1.59	1.18	1.10
寄与率		24.37	8.10	6.71	6.36	4.71	4.40

注：網掛けは因子負荷量の絶対値が0.4以上

表21 不満に関する6因子の平均値

	市営	農協	民間	合計	F 値	多重比較
農業技術因子	-0.01 (0.89)	-0.11 (0.92)	0.14 (1.07)	0.00 (0.91)	0.99	
環境・関係の困難因子	-0.04 (0.89)	0.07 (0.94)	-0.20 (0.77)	-0.00 (0.91)	4.39*	農協>民間
関係志向因子	0.10 (0.90)	-0.10 (0.90)	0.02 (0.89)	0.00 (0.90)	7.42**	市営>農協
設備因子	-0.11 (0.80)	0.11 (0.90)	0.05 (0.90)	-0.00 (0.86)	9.49**	農協>民間
収穫物困難因子	0.05 (0.89)	-0.08 (0.89)	0.16 (1.02)	0.00 (0.90)	4.37*	市営>農協
活動阻害因子	0.06 (0.87)	-0.06 (0.84)	-0.02 (0.81)	-0.00 (0.85)	2.76	

() 内の数値は標準偏差 *p<.05 **p<.01

「もっと友人と一緒に作業を楽しみたい」、「他の利用者ともっと仲良くなりたい」と関連が強いため、「関係志向因子」とする。因子4は、「トイレが設置されておらず、不便を感じる」、「シャワーが設置されておらず、不便を感じる」、「利用者向けの駐車場がない」に関連する「設備因子」、因子5は、「たくさん野菜が収穫できないと感じる」、「できる野菜の品質がよくないと感じる」に関連する「収穫物困難因子」、因子6は、「家から遠くて利用しづらい」、「他の事が忙しくて、市民農園にあまり行けない」、「市民農園が少なくて、自分に合った所を選べない」という項目に関連するため、「活動阻害因子」としておこう。

次に、6因子すべてについて、回帰法を用いて因子得点を算出した。表21は、6因子の因子得点をもとに開設主体ごとの平均値の比較を行ったものである。「環境・関係の困難因子」、「設備因子」については農協開設型が民間開設型よりも得点が高く、「関係志向因子」、「収穫物困難因子」については、市営が農協開設型よりも得点が高いとなっている。

4-4. 市民農園利用者の社会関係志向、満足度の規定要因

市民農園での利用者実態と、その活動の展開可能性を探るために、市民農園を通じた利用者の関係志向、および市民農園での満足度の規定要因に関する重回帰分析を行っていくことにしたい。

表22 変数の説明

性別（男性）	男性 1、女性 0
年齢	「60歳未満」 1、「60-64」 2、「65-69」 3、「70-74」 4、「75歳以上」 5
世帯年収	「200万未満」 1、「200～299」 2、「300～399」 3、「400～499」 4、「500万以上」 5
農協ダミー	農協 1、その他 0
民間ダミー	民間 1、その他 0
利用日数／月	日数の値
利用時間／日	時間の値
配偶者との農作業	あり 1、なし 0
子どもとの農作業	あり 1、なし 0
農作業協力	「当てはまる」 5～「当てはまらない」 1
市民農園外での関係	「当てはまる」 5～「当てはまらない」 1

表23 ①「関係志向因子」、②「農作業を通して色々な人と知り合いたい」の規定要因（数値は標準化偏回帰係数）

従属変数	①	②
性別（男性）	.049	-.003
年齢	-.148**	-.045
世帯年収	-.037	-.066*
農協ダミー	-.064*	-.138**
民間ダミー	-.032	-.019
利用日数	-.045	.044#
利用時間	.013	.047#
配偶者との農作業	.033	.029
子どもとの農作業	.125**	-.026
農作業協力	.088*	.271**
市民農園外での関係	.134**	.259**
F値	8.199**	43.00**
調整済み決定係数	0.065	0.255

#<.10 *p<.05 **p<.01

表24 市民農園での満足度の規定要因（数値は標準化偏回帰係数）

性別（男性）	-.037
年齢	-.039
世帯年収	.037
農協ダミー	.010
民間ダミー	-.004
利用日数	.053#
利用時間	.021
配偶者との農作業	.023
子どもとの農作業	-.010
農作業協力	.146**
市民農園外での関係	-.088**
F値	3.954**
調整済み決定係数	0.023

#<.10 *p<.05 **p<.01

まずは、市民農園を通じた社会関係志向の規定要因について見ておこう。従属変数としては、前節の因子分析により抽出した「関係志向因子」と、表18に示した「市民農園に対する現在の考え」のうち「農作業を通して色々な人と知り合いたい」の2変数を用いる。独立変数としては表22に示した11変数を投入する⁸⁾。

表23に示した結果を見ると、①「関係志向因子」と②「農作業を通して色々な人と知り合いたい」の規定要因としては、「市民農園での農作業を協力すること」、および「市民農園の外でも関係を持つこと」が正の効果、逆に、農協開設農園利用者で負の効果を持つことが共通している。ここからは、そもそも市民農園での関係形成がある人が、さらなる関係形成志向を持っていることが見えてくる。以上の点に加えて、①「関係志向因子」については、「子どもとの農作業」が正の効果、年齢が負の効果を持っている。また、②「農作業を通して色々な人と知り合いたい」という意識については、世帯年収が負の効果を持っていた。

次に、市民農園での満足度の規定要因について見てい

くと（表24）、「市民農園での農作業を協力すること」が満足度を高める効果が認められる。この点は、市民農園の社会関係形成効果に期待する視点からも、市民農園に関するサービスの今後を考える上でも、重要な知見と考えられる。

その一方で、「市民農園の外でも関係を持つこと」は満足度を下げる効果が認められた。この点の解釈はむづかしいが、市民農園利用者との関係が満足度に複雑な関係を持つことを示唆する知見と考えられる。

4-5. 今後の市民農園利用意向について

最後に、今後の市民農園利用意向について見ておこう（表25）。

表25 今後の市民農園利用意向

	度数	%
利用したい	1457	90.7
利用したいと思わない	22	1.4
どちらとも言えない	99	6.2
無回答	29	1.8
計	1607	100.0

表26 今後利用したいサービス (%)

	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	既にそのサービスを利用している
週に1～2回、耕作指導をしてくれる人が来る	9	13	13	18	38	3
備え付けの農具や耕作機械を借りられる	18	16	9	12	29	4
シャワー室が利用できる	5	4	9	13	60	0
駐車場を利用できるようになる	22	14	9	9	30	3
農作業の技術や知識を学ぶ講習会に参加できる	14	20	13	13	30	2
市民農園を使って楽しいイベントが開催される	9	15	18	16	33	2
共同作業など他の利用者と仲良くなれる機会がある	10	16	21	18	26	2
家から徒歩15分以内の近所で農園を利用できる	39	19	8	6	14	2
農家の人と交流したり、指導を受けたりできる	14	18	17	15	28	2
育てた作物を朝市のような所で販売できる	8	8	12	15	50	0
利用できるスペースがあと10m ² 広がる	30	16	13	12	24	—

今後については、「利用したいが」約9割と圧倒的に多く、「利用したいと思わない」という回答は1.4%に過ぎない。

表26に示した「今後利用したいサービス」は、「仮に、利用料金を月額で500円（年額で6000円）多く支払う代わりに、以下のようなことが実現するとしたら、あなたはそのサービスを利用したいと思いませんか」という質問に対する回答である。サービス利用意識が高い項目は、「家から徒歩15分以内の近所で農園を利用できる」という近接性に関する項目、「利用できるスペースがあと10m²広がる」という農園面積に関する2つの項目となっている。逆に、「市民農園を使って楽しいイベントが開催される」、「共同作業など他の利用者と仲良くなれる機会がある」といった交流に関する項目や、「育てた作物を朝市のような所で販売できる」といった販売に関するサービスはそれほど高くない⁹⁾。

5. まとめにかえて

本稿では、名古屋市の市営、農協開設、民間開設すべての市民農園利用者を対象とした「名古屋市の市民農園に関する意識調査」データの分析を行った。1つの自治体における、多様な主体が開設した市民農園の利用者を対象とした調査がないという既存研究の限界にこたえること、および、先行研究では十分なされてこなかった、利用者の特性や、利用の実態、利用者の行動変容、意識構造の規定要因などの詳細な分析に向けての端緒を開くことという2つの課題を設定し、調査データの分析からは以下の知見が得られた。

第1に、開設主体別の違いである。利用者の年齢については、農協>市営>民間の順で高く、移動時間は民間>市営>農協の順に長く、一月あたりの利用日数については、農協>市営>民間の順に多くなっている。一日当

たりの利用時間は対照的に、民間開設型が最も長い。市民農園での関係形成については、「自分の作物や相手の作物について、協力して農作業をする」で、民間が市営、農協開設型よりも有意に高く、「市民農園で知り合った人と、市民農園の外でも仲良くする」では、農協開設型が他のカテゴリよりも高い数値となっている。満足度については、「畑の広さ」、「雰囲気良さ」、「付属設備」、「サービス全般」で、民間開設型利用者の満足度が高い。不満については、「環境・関係の困難因子」、「設備因子」について農協開設型が民間開設型よりも得点が高く、「関係志向因子」、「収穫物困難因子」については、市営が農協開設型よりも有意に高くなっている。

第2に、市民農園利用者の社会関係志向、満足度の規定要因である。関係形成志向の規定要因は、「市民農園の外でも関係を持つこと」が正の効果、逆に、農協開設農園利用者で負の効果を持つことが共通している。ここからは、そもそも市民農園での関係形成がある人が、さらなる関係形成志向を持っていることが見えてくる。以上の点に加えて、①「関係志向因子」については、「子どもとの農作業」が正の効果、年齢が負の効果を持ち、②「農作業を通して色々な人と知り合いたい」という意識については、世帯年収が負の効果を持っていた。

市民農園での満足度の規定要因について見ていくと、「市民農園での農作業を協力すること」については満足度を高める効果が認められる。その一方で、「市民農園の外でも関係を持つこと」は満足度を下げる効果が認められた。

以上の分析は単純集計と、データの探索的な分析を中心とした中間報告的なものであり、今後さらなる分析の精緻化が不可欠である。今回の分析結果を踏まえつつ、現在継続中の関係者への聞き取り調査を踏まえ、分析を進めていきたい。

付記

本調査にご回答いただきましたすべてのみなさまに記して深く感謝申し上げます。また、調査にご協力いただいた農業協同組合、市民農園開設運営事業者のみなさまに、記して感謝申し上げます。

本研究は2014年度科学研究費助成（挑戦的萌芽研究）「都市における高齢者主体の『農』の活動とアクティブ・エイジングに関する研究」（研究代表：松宮朝）の研究成果の一部である。

注

- 1) 名古屋文理大学健康科学部教授。
- 2) 名古屋市緑政土木課都市農業課主事。
- 3) 本調査は、「なごや市民農園利用者調査の実施に関する協定書」を結んだなごや農業協同組合、天白信用農業協同組合、緑信用農業協同組合、愛知県公立大学法人愛知県立大学、公益財団法人名古屋まちづくり公社、名古屋市緑政土木局の6主体による調査である。詳細については、鶴飼（2015）を参照。
- 4) 農林水産省「市民農園をめぐる状況」ホームページ http://www.maff.go.jp/j/nousin/nougyou/simin_noen/zyokyo.html、2015年6月30日最終確認。
- 5) 農林水産省（2002）以外は研究論文としてまとめられたものに限定しており、自治体、農協、民間による利用者実態調査は掲載していない。
- 6) 以降の分析における平均値の比較は、すべて一元配置分散分析によるものであり、TukeyHSD法による多重比較を用いている。
- 7) このデータの解釈に際して、調査が1～3月に実施されたことの影響を考慮する必要があるかもしれない。夏期の場合は水やり、草取り、収穫などの作業で、一月あたりの回数が増えることも推測される。冬季に実施した調査データである点を断っておきたい。
- 8) 多数の変数を投入するため多重共線性の危険があるが、独立変数間の相関を確認したところ、顕著に高い相関関係は認められなかった。
- 9) サービス利用をめぐるより詳細な分析は、鶴飼（2015）を参照。

文献

鶴飼洋一郎，2015，「都市農地の保全を目的とした市民農園の振興に関する研究」『名古屋都市センター研究報告所』120：1-18。

碓井崧・松宮朝編著，2013，『食と農のコミュニティ論』創元社。

嶽山洋志・中瀬勲，2004，「市民農園を機軸にした地域ネットワークの形成について」『環境情報科学論文集』18：83-88。

河野誠・藤田直子，2014，「『まちなか菜園』を事例とした都市型農園の現状と利用者ニーズの特性に関する研究」『ランドスケープ研究』77(5)：433-436。

片岡勝美，2001，「都市における市民農園を考える」『玉川大学学術研究所紀要』7：5-14。

久保田裕美，2011，「都市住民と『農』との新たな関わりに関する現状と課題」『食品経済研究』39：18-32。

定井喜明，1986，「市民農園の需要に関する住民意識の分析」『日本都市計画学会学術研究論文集』21：385-390。

定井喜明，1989，「市民農園の利用者ニーズと発展方策」『都市計画

論文集』24：97-102。

妹尾勝子・石川明美，1998，「市民農園利用の実態と今後の課題」『広島文教女子大学紀要』33：279-290。

内藤重之，2011，「市民農園の展開と都市・農村交流」橋本卓爾ほか編『都市と農村』日本経済評論社。

中村攻ほか，1986，「市民農園の利用が余暇生活におよぼす影響に関する調査研究」『千葉大園学報』37：47-54。

中山徹，1986，「市民農園の利用実態及び利用希望意識に関する研究」『日本都市計画学会学術研究論文集』21：397-402。

農林水産省編，2002，『市民農園に関する意向調査結果』。

農林水産省編，2011，『平成23年版食料・農業・農村白書（助農林統計協会）』。

農林水産省農林振興局編，2011，『都市農業に関する実態調査結果の概要』。

樋口めぐみ，1999，「日本における市民農園の存立基盤」『人文地理』51(3)：75-88。

松永理恵・李洪泰・進士五十八，1995，「都市地域における市民農園利用の現状並びに施設整備・運営への改善方向」『日本都市計画学会論文集』33：42-4。

松宮朝，2006，「都市における住民主導型市民農園の地域的展開」『愛知県立大学文学部論集（社会福祉学科編）』54：151-170。

松宮朝，2010，「市民農園の福祉的展開の可能性」『人間発達学研究』1：27-35。

松宮朝，2013a，「都市における農の活動をめぐって」『愛知県立大学教育福祉学部紀要』61：123-134。

松宮朝，2013b，「都市における農の活動」碓井崧・松宮朝編著『食と農のコミュニティ論』創元社。

三宅康成・松本康夫，1997，「高齢者農園における利用圏の実態と利用者意識」『農村計画学会誌』16(3)：240-250。

三宅康成・松本康夫，2001，「体験区画を併設した市民農園の実態と効果」『農村計画論文集』3：37-42。

三宅康成・松本康夫，2002，「農業公園内に設置された市民農園の評価」『農村計画学会誌』21：121-126。

宮崎聡太郎・佐土原聡，2001，「都市における市民農園の有用性に関する研究」『2001年度日本建築学会関東支部研究報告集』：325-328。

宮崎猛編著，2000，『農と食文化のあるまちづくり』学芸出版社。

八木洋憲，2009，「都市農地における体験農園の意義と利用者の評価」『共済総研レポート』：14-20。

山崎寿一，1985，「阪神間における市民農園の利用実態とその役割に関する研究」『日本都市計画学会学術研究論文集』20：343-348。

山田崇裕・門間敏幸，2006，「農業体験農園が利用者に及ぼす効果の解明」『農業経営研究』128：67-70。

湯沢昭，2012，「市民農園の利用者特性と効果に関する一考察」『日本建築学会計画系論文集』77(675)：1095-1102。

李洪泰・進士五十八，1996，「都市における市民農園の意義と利用体験の効果に関する研究」『東京農業大学農学集報』40(4)：231-239。

姚琳・北原理雄，2001，「千葉ニュータウンにおける市民農園の現状と課題」『日本建築学会計画系論文集』544：201-208。

1 あなたの市民農園についての利用状況についてお聞かせください。

問1 あなたが、現在の市民農園を利用し始めた時期はいつごろですか。

(約 年前) 又は (平成・昭和 年頃)

問2 市民農園までの主な交通手段について、あてはまるものすべてに○を付けてください。

また、あなたの住まいから市民農園に行くまでの移動時間を教えてください。

1. 徒歩のみ 2. 自転車 3. 自動車
4. 電車・地下鉄 5. バス 6. その他 (具体的に：)

市民農園に行くまでの移動時間 (分)

問3 あなたが利用している区画の広さについて教えてください。

目安として、10㎡は畳6枚程度の広さにあたります。

1. 約1㎡ 2. 約5㎡ 3. 約10㎡ 4. 約15㎡ 5. 約20㎡ 6. 約30㎡
7. 30㎡よりも大きい 9. 区画を貸りるタイプの市民農園ではない

問4 あなたが市民農園を利用するのに支払っている料金 (利用料や参加料) はいくらですか。年額もしくは月額でお答えください。

(年額 円) 又は (月額 円)

問5 あなたが市民農園を利用するときに、一緒に農作業をする方はいらっしゃいますか。
あてはまるものすべてに○を付けてください。

1. 配偶者 2. 子ども (人) 3. 孫 (人) 4. 母親 5. 父親
6. 祖父 7. 祖母 8. 友人 9. 職場の同僚・上司 (人)
10. その他 (具体的に： (人))

問6 あなたは1か月に、だいたい何日くらい市民農園を利用しますか。

また、1回あたりの滞在時間はどのくらいですか。

1か月に (日) 1回あたりの滞在時間 (分)

2 あなたの市民農園についてのお考えをお聞かせください。

問7 現在の市民農園について **10点満点**で満足度を付けるとしたら何点になりますか。あてはまる点数を選んで、○を付けてください。

← 不満		満足 →
満足度 (1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8 - 9 - 10)		

問8 あなたは、今の市民農園をこれからも利用したいと思いますか。あてはまる番号を選んで○をつけてください。

1. 利用したい	2. 利用したいと思わない	3. どちらとも言えない
----------	---------------	--------------

問9 現在の市民農園の設備やサービスについて **10点満点**で満足度を付けるとしたら何点になりますか。あてはまる点数を選んで、○を付けてください。

	← 不満		満足 →
畑の広さ	(1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8 - 9 - 10)		
雰囲気の良さ	(1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8 - 9 - 10)		
家からの近さ	(1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8 - 9 - 10)		
付属設備	(1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8 - 9 - 10)		
サービス全般	(1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8 - 9 - 10)		

問10 あなたの市民農園の他の利用者との関係についてお聞きします。あてはまる番号に○を付けてください。

	当てはまる	やや当てはまる	どちらともいえない	あまり当てはまらない	当てはまらない
a. お互いにあいさつをする	1	2	3	4	5
b. 自分の作物や相手の作物について、協力して農作業をする	1	2	3	4	5
c. 市民農園で知り合った人と、市民農園の外でも仲良くする	1	2	3	4	5
d. 作物の育て方などについて教えてもらうことがある	1	2	3	4	5
e. 作物の育て方などについて教えてあげることがある	1	2	3	4	5

問 11 市民農園を使う目的について、あなたの今の考えについてお聞きします。あてはまる番号に○を付けてください。

	当てはまる	やや当てはまる	どちらともいえない	あまり当てはまらない	当てはまらない
a. 農作物を自分で育てて家計を楽にしたい	1	2	3	4	5
b. 教育として、子どもに農作業を体験させたい	1	2	3	4	5
c. 農作業が運動になって健康に良い	1	2	3	4	5
d. 休日や余暇の趣味として楽しみたい	1	2	3	4	5
e. 安全・安心な農作物を自分で作りたい	1	2	3	4	5
f. 本格的に農業をするため、技術や知識を習得したい	1	2	3	4	5
g. 農作業を通して色々な人と知り合いたい	1	2	3	4	5
h. 家族や知人に自分の作った野菜を食べてもらいたい	1	2	3	4	5
i. 農作業を通して家族のきずなを深めたい	1	2	3	4	5
j. 友人や知人と一緒に農作業を楽しみたい	1	2	3	4	5
k. 地産地消など、環境に良いことをしたい	1	2	3	4	5

問 12 市民農園を使う目的について、あなたが市民農園を使い始めたときの考えについてお聞きします。あてはまる番号に○を付けてください。

	当てはまる	やや当てはまる	どちらともいえない	あまり当てはまらない	当てはまらない
a. 農作物を自分で育てて家計を楽にしたい	1	2	3	4	5
b. 教育として、子どもに農作業を体験させたい	1	2	3	4	5
c. 農作業が運動になって健康に良い	1	2	3	4	5
d. 休日や余暇の趣味として楽しみたい	1	2	3	4	5
e. 安全・安心な農作物を自分で作りたい	1	2	3	4	5
f. 本格的に農業をするため、技術や知識を習得したい	1	2	3	4	5
g. 農作業を通して色々な人と知り合いたい	1	2	3	4	5
h. 家族や知人に自分の作った野菜を食べてもらいたい	1	2	3	4	5
i. 農作業を通して家族のきずなを深めたい	1	2	3	4	5
j. 友人や知人と一緒に農作業を楽しみたい	1	2	3	4	5
k. 地産地消など、環境に良いことをしたい	1	2	3	4	5

問 13 あなたは、現在市民農園を利用する上で、不満を感じていますか。あてはまる番号を選んで○を付けてください。

自分には関係ないと感じる質問については、「あてはまらない」を選んでください。

	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	あてはまらない
a. たくさん野菜が収穫できないと感じる	1	2	3	4	5	9
b. できる野菜の品質がよくないと感じる	1	2	3	4	5	9
c. 肥料や道具の使い方がよくわからない	1	2	3	4	5	9
d. 無農薬・減農薬栽培をしたいが、うまくいかない	1	2	3	4	5	9
e. 道具や肥料をそろえるのにお金がかかりすぎる	1	2	3	4	5	9
f. 作物がとれすぎて、持て余している	1	2	3	4	5	9
g. 知識や技術を教えてくれる人がいない	1	2	3	4	5	9
h. 本物の農家に教えてもらいたい	1	2	3	4	5	9
i. もっと家族と一緒に作業を楽しみたい	1	2	3	4	5	9
j. もっと友人と一緒に作業を楽しみたい	1	2	3	4	5	9
k. 教育の為に借りたのに、子どもが参加してくれない	1	2	3	4	5	9
l. 他の利用者ともっと仲良くなりたい	1	2	3	4	5	9
m. 農園の見た目など、雰囲気が良くないと感じる	1	2	3	4	5	9
n. 別の利用者の区画から作物がはみ出して迷惑だ	1	2	3	4	5	9
o. 別の利用者の区画から農薬が飛んできて迷惑だ	1	2	3	4	5	9
p. 仲の悪い利用者がいて、その人に会いたくない	1	2	3	4	5	9
q. 虫や鳥のせいで、作物がだめになってしまう	1	2	3	4	5	9
r. 農具を家から持ってくるのが面倒だ	1	2	3	4	5	9
s. トイレが設置されておらず、不便を感じる	1	2	3	4	5	9
t. シャワーが設置されておらず、不便を感じる	1	2	3	4	5	9
u. 利用者向けの駐車場がない	1	2	3	4	5	9
v. 家から遠くて利用しづらい	1	2	3	4	5	9
w. 他の事が忙しくて、市民農園にあまり行けない	1	2	3	4	5	9
x. 市民農園の利用料を払うのが生計の負担だと感じる	1	2	3	4	5	9
y. 市民農園が少なくて、自分に合った所を選べない	1	2	3	4	5	9

問 14 最近は、農地を利用できるだけでなく、さまざまなサービスが利用できる市民農園が増えてきています。仮に、利用料金を月額で 500 円 (年額で 6000 円) 多く支払う代わりに、以下のようなことが実現するとしたら、あなたはそのサービスを利用したいと思いますか。あてはまる番号に○を付けてください。

	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	既にそのサービスを利用している
a. 週に 1~2 回、耕作指導をしてくれる人が来る	1	2	3	4	5	9
b. 備え付けの農具や耕作機械を借りられる	1	2	3	4	5	9
c. シャワー室が利用できる	1	2	3	4	5	9
d. 駐車場を利用できるようになる	1	2	3	4	5	9
e. 農作業の技術や知識を学ぶ講習会に参加できる	1	2	3	4	5	9
f. 市民農園を使って楽しいイベントが開催される	1	2	3	4	5	9
g. 共同作業など他の利用者と仲良くなれる機会がある	1	2	3	4	5	9
h. 家から徒歩 15 分以内の近所で農園を利用できる	1	2	3	4	5	9
i. 農家の人と交流したり、指導を受けたりできる	1	2	3	4	5	9
j. 育てた作物を朝市のような所で販売できる	1	2	3	4	5	9
k. 利用できるスペースがあと 10 m ² 広がる	1	2	3	4	5	

3 あなたのことについてお聞かせください。

問 15 あなたの性別を教えてください。

1. 男性 2. 女性

問 16 あなたの年齢を教えてください。

1. 20 歳未満 2. 20~24 歳 3. 25~29 歳 4. 30~34 歳 5. 35~39 歳
 6. 40~44 歳 7. 45~49 歳 8. 50~54 歳 9. 55~59 歳 10. 60~64 歳
 11. 65~69 歳 12. 70~74 歳 13. 75~79 歳 14. 80 歳以上

問 17 あなたの現在の住所について、区名を教えてください

区名 (区) ※例：千種区、天白区、守山区
--

問 18 ご家族についてお聞きします。**同居されている方すべて**に○をつけてください。
 お子さんやお孫さんなど、何人もいる場合は人数もご記入ください。

1. 配偶者 2. 息子 (人) 3. 娘 (人) 4. 母親 5. 父親 6. 祖父 7. 祖母 8. 男性の孫 (人) 9. 女性の孫 (人) 10. その他 (具体的に：)
--

問 19 あなたが育った環境についてお聞きします。あなたが **15歳の頃の身のまわりの環境**について、あてはまる番号に○をつけてください。

	当てはまる	やや当てはまる	どちらともいえない	あまり当てはまらない	当てはまらない
a. 家族が趣味として、家庭菜園で野菜等を育てていた	1	2	3	4	5
b. 生計を支える人が仕事として、農業をしていた	1	2	3	4	5
c. 家の周りには、山や川などの自然が多くあった	1	2	3	4	5
d. 家族が農作業をするのを手伝っていた	1	2	3	4	5
e. 学校教育の中で、野菜を育てる事があった	1	2	3	4	5
f. 友達と遊ぶのは、家の中が多かった	1	2	3	4	5
g. 家族でレジャーとして海や山へ行くことが多かった	1	2	3	4	5

問 20 あなたが現在の市民農園を利用する前の、農作業の経験についてお聞きします。
あてはまるものすべてに○をつけて下さい。

1. 農作業をした事がほとんどなかった 2. 他の市民農園を利用して、野菜を栽培していた 3. 自分の趣味で、土地 (家庭菜園など) を使って野菜を栽培していた 4. 自分の趣味で、土地 (家庭菜園など) を使って花や樹木を栽培していた 5. 自分の趣味で、プランターを使って野菜を栽培していた 6. 自分の趣味で、プランターを使って花や樹木を栽培していた 7. 生計を支える自分の仕事として、農作業をしていた 8. 生計を支える家族の仕事の手伝いで、農作業をしていた 9. その他 (具体的に：)
